

平成27年度

病害虫発生予察特殊報(第5号)

平成28年1月20日

神奈川県農業技術センター

病害虫名：トマト黄化病

病害ウイルス名：*Tomato chlorosis virus* (ToCV)

作物名：トマト

1 発生経過

- (1)平成27年10月に、県内の施設栽培トマトにおいて、葉に黄化やえそが散見される株が認められ(図1)、生産者から診断依頼があった。
- (2)当センター生産環境部において、遺伝子診断(RT-PCR法)並びに塩基配列情報等の解析を行った結果、*Tomato chlorosis virus* (ToCV)によるトマト黄化病と同定された。
- (3)トマト黄化病の神奈川県内での発生確認は初めてである。国内においては、平成20年に栃木県で初めて確認されて以来、群馬県、熊本県、鹿児島県、福岡県、茨城県、大分県、千葉県および福島県において特殊報が発表されている。

2 病徴および生態

- (1)発病の初期には、葉の一部の葉脈間が退緑黄化し、黄斑を生じる(図2)。
- (2)症状が進展すると葉脈に沿った部分を除いて葉全体が黄化し、葉巻症状やえそ症状が現れる(図3)。
- (3)下位葉で重症化する傾向があり、病徴は生理障害(苦土欠乏症)に似る。
- (4)発病株は生育が抑制され、収量が減少する傾向が見られる。
- (5)本ウイルスはクリニウイルス属のウイルスで、コナジラミ類(タバココナジラミおよびオンシツコナジラミ)により媒介される。
- (6)半永続伝搬であり、ウイルスを吸汁獲得したコナジラミは、数時間から数日間ウイルス媒介能を有する。
- (7)クリニウイルス属のウイルスは、汁液伝染、土壌伝染および種子伝染はせず、媒介虫での経卵伝染はしないとされている。

3 防除対策

- (1)本ウイルスはコナジラミ類によって媒介されるため、病害虫情報(<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/p580341.html>)を参考に、コナジラミ類の防除を実施する。
- (2)購入苗はよく観察し、コナジラミ類の寄生やウイルス症状が見られないことを確認してから定植する。
- (3)施設開口部には防虫ネット(0.4mm目以下)を設置し、施設外からのコナジラミ類の侵

入を防ぐ。

(4)施設内および周辺の雑草は、ウイルスの伝染源やコナジラミ類の繁殖場所となる可能性があるので除草を徹底する。

(5)発病株はすみやかに抜き取り、ビニール袋に入れて密閉し、枯死させてから処分する。

(6)栽培終了後は、施設を密閉して蒸し込んで保毒虫を死滅させる。



図1 施設内における発病状況



図2 葉の黄化症状

図3 葉のえそ症状

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>